

聖書宣教会通信

〒205-0017 東京都羽村市羽西2-9-3 Tel 042(554)1710 Fax 042(554)5562 振替・00150-6-34971

巻頭言

「就任一年：本務の確認」

聖書宣教会会長 鞭木由行
生田丘の上キリスト教会牧師

この一年

会長に就任して一年余が無事経過いたしました。あわただしい一年でしたが、背後にある祈りの支えを実感した一年でもありました。何よりも私が奉仕している愛する教会の皆さんに感謝しなければならないと思っています。聖書宣教会のために多くの時間を費やすことを許し、そこから生じた牧会上の欠けを補い、惜しみなく支援してくださいました。また聖書宣教会の同僚の先生方からも多くの助けをいただきました。親しい交わりの中でこれまでの事情に疎い会長の情報不足を補い、重荷を共有できるように「訓練」してくださいました。そして、昨年各地区の同窓会に招かれ、卒業生の皆様との交わりからも大きな励ましを受けました。皆様に心から感謝いたします。

変化の時代

さて、モリヤに関連した諸問題は、今年三月をもって最終報告のとりまとめに入りますが、そのような折りに、聖書宣教会は奇しくも創立50周年を迎えます。このようななけじめの年月に改めて聖書宣教会の本務とは何かを考えさせられています。すべての制度・団体は、年月を経るに連れ、内部では創業者が去ることで代替わりが起こり、外部からは社会問題の影響にさらされ、本来の使命に留まることが次第に困難になって行きます。ロンドン大聖堂のリドン師が述べた「すべての制度団体は、正反対のものを生み出す傾向がある」という言葉は、留まることが、事実上不可能であることを表明したものです。このことは神学校のあり方においても、聖書信仰のあり方においても、例外ではありません。起源においてめざしたところに留まるこ

とがどんなに困難であるかは、多くの歴史が証明しているところです。

本務の確認

聖書宣教会もそのような流れの中で五十年の歩み続けてきました。この節目を目前にして、私は、今、聖書宣教会に必要なことは、意識的にみことばに留まることではないかと思われています。みことばを語るだけでは不十分だ、というような声が増す中で、もう一度みことばの十全性に真剣に向き合うことではないかと思います。私が聖書神学舎を卒業したとき、確信したことはそのことでした。それ以前は、聖書とは私があるために何かしなければならぬところの真理でした。しかし、神学舎で私が教えられたことは、みことばは十全であり、私こそみことばにひれ伏して仕えなければならないということでした。

先日、野村進氏の『千年、働いてきました』を読みました。著者の関心は、なぜ日本にだけ長寿の企業が存在しているのかということでした。現に世界最古の企業は日本にあるそうです。彼が発見した原則は、本業に立ち続けることであり、本業から逸脱した拡大への警戒でした。それがバブル崩壊後の危機をも乗り越えさせたということです。正反対のものを生み出さない秘訣がここにあるように思いました。この就任一年は、聖書宣教会の本務に気付かされた年でした。みことばを教えることをもって本業とする神学校でありたい、その必要を信じて支えてくださる諸教会とともに歩みたい、と願われています。



卒業と入会の準備のため、一年の中で一番忙しい時期ですが、皆様のお祈りを一番必要としている時期でもあります。そのような中、研修生や教職員が主の哀れみと恵みのなかに支えられていることを感謝しています。

今年度は9名の兄弟達を福音宣教の現場に送り出す予定です。一人一人がその遣わされて行くところで、主のみことばに忠実に仕え、主のご栄光のために用いられるように願っています。牧師・伝道者として、この世の現実と主の教会の必要をしっかりと見据えつつ、永遠に変わらない主のみことばに従っていくことが出来るようにお祈りください。

来年度には、今年度入会生の倍以上の9名の新入会生が与えられました。いろいろな意味でマイナスからの出発をしたこの一年でしたが、「主の恵み」が尽きないことを覚えさせられています。諸教会の祈りの中で聖書宣教に託された、主が召された大切な献身者にとって、羽村での訓練が一人一人の知的且つ霊的な成長にとってかけがえのないものとなるようにお祈りください。そのためにも教職員がよく整えられ

て奉仕が出来るように覚えていただければ感謝です。

7月に持たれる夏期研修講座では、聖書の中から「祈り」のテキストを取り上げ、ヘブル語・ギリシャ語本文から釈義をした上で、どのような説教につなげていくのかを、具体的に学びたいと思っています。「主のことばを聞くことのききん」(アモス 8:11)の時代にあつて、説教者自らがまずみことばをよく教えられていく必要があるのではないかと思います。その意味でも、神学校教師が研修講座のためによく準備をして整えられるようにお祈りください。

カリキュラムの改訂と教師達の世代交代に伴い、新しい教師陣が必要になってきています。聖書神学舎の使命を共有し、その教育のために主から重荷をいただいて献身する奉仕者が与えられるようにお祈りください。と同時に、それぞれの教師達に与えられている賜物が、主の教会の現在と将来の必要のためにふさわしく用いられるようにお祈りくだされば感謝です。主の祝福をお祈りしつつ。

教会音楽科教務担当教師 飯島 千雍子

私のくちびるに賛美がわきあふれるようにしてください。あなたが私にみおきてを教えてください。私の舌はあなたのみことばを歌うようにしてください。あなたの仰せはことごとく正しいから。詩篇 119 篇 171～172 節

今年の【教会音楽のひととき】は、故 岳藤豪希先生を覚えて、先生の作品でプログラムを作りました。岳藤先生の作品としては、賛美歌の作詞作曲、賛美歌の翻訳、独唱、重唱、合唱曲、オルガン作品など多数あります。岳藤先生の演奏を作品と考えることもできます。これまで教会合唱曲集 I、II、新作賛美歌集、みことばの歌 1、2 が出版され、続く讚美歌集の出版も待望されています。

エヴァンゲリウム・カントライ誕生間もないころから賛美してきた、イエスよ宿りませ、愛の神よ、慰め主なる主をなどの翻訳賛美歌は、

そのままオリジナルではないかと思われるほどの訳です。その働きのために先生は時に夜を徹して働かれました。今、賛美をしながら、このことばへの感性は、神さまが岳藤先生に特別に賜ったものだと思われています。ことばの力を感じています。賛美の詞を歌うことを通して養われてきたことを、私自身、実感しています。30年以上歌い続けてきた歌のことばが蓄えられて、あるとき、動き、語り始めるのです。みことばを歌うことの意味をあらためて実感させられます。みことばの賛美を学び、主に仕える献身者が起こされますようお祈りください。

私たちは、この宝を、土の器の中に入れてい
るのです。それは、この測り知れない力が神
のものであつて、私たちから出たものでない
ことが明らかにされるためです。

II コリント 4 章 7 節

宣教地から「ムスリムと向き合う」

タンザニア 清水 担

毎週木曜日午後4時半、いつものようにミトゥエロ村に着き、市場の裏手に腰を下ろすと人々が集まってきます。「こんにちは。今日はどんな話?」「今日はイエス様の例え話で死後についてです。ある金持ちがいて……。」と、すぐに聖書を読み始めます。入れ替り立ち替りでやってくる人たちのために同じ話を何度も繰り返すこともあります。最初からいる人はそれを3度も4度も聞くうち、私の代わりに説明をしてくれたりします。

その日の箇所を終えると、質問を受けます。多くはキリスト教を非難したり、否定したりする内容です。モスクで教えられた事だけでなく、自分で聖書を読んだ上での疑問もあります。先日は次のような質問がありました。

「マタイ 15:24 にはイエスは『イスラエルの家の滅びた羊以外のところには遣わされていません』と書かれている。マタイ 10:6 でもイエスは弟子たちに『イスラエルの滅びた羊のところに行きなさい』と命じ、異邦人の家に入るなどと言っている。イエスはイスラエルのためだけ

の預言者であって、異邦人である日本人のあなたやタンザニア人の私たちには関係がない。福音書の中でイエスがすべての人のために来たという箇所があるのか。」

どのようにお答えになるでしょうか。

「イエス様は何者か」これが最も頻繁に訊ねられる質問です。そしてこれはムスリムの彼らにとっては最大の壁でもあるのです。イエス様を神から遣わされた預言者の一人にしかすぎないと幼い時からずっと教えられて来ているからです。ですから、聖書から共に学び、自らの疑問や質問に答えを得ても、イエス様を「生ける神の子、キリスト」と信じるに至るのは容易ではありません。「……聖霊によるのでなければ、だれも、『イエスは主です』と言うことはできません。」(Iコリント 12:3)

聖霊の助けによって、ミトゥエロ村の人々がイエス様を神の御子、救い主であると信じることができるようにお祈りください。

(清水担兄、いずみ姉は39期卒。SIM宣教師としてタンザニアで2期目の奉仕中。)

聖書宣教会のために祈ってくださる皆さまに心から感謝しています。
近況と祈りの課題をお届けします。

- 2月18日に入会試験が行われ、2008年度には9名の新入会生を迎えることになりました。召してくださる主をあがめつつ、新年度への備えを続けています。
- 卒業式は3月10日に行われます。9名の卒業・修了予定者の、主の畑での務めのために、主の導きと助けをお祈りください。
- 鞭木会長、津村教師会議長の体制でなお一年の歩みを続け、2009年度からの新体制に向けて備えを重ねる年度になります。主の御声に聴き従う歩みであるようお祈りください。
- 研修生と教職員のため、責任役員と評議員のために。主の助けをいただいて、健全な霊肉をもって主に仕えることができますように。
- 聖書宣教会のために祈り、支えてくださる主の教会とともに、この時代に、みことばの宣教に勤しむことができますように。

2008 年度 聖書宣教会講座案内

2008 年度は次のようなプログラム、講座を予定しています。5月10日(土)のオープンデイ「公開授業」を始め、聖書講座、教会合唱講座はどなたでも参加できます(オープンデイ以外は要申込)。お待ちしております。

オープンデイ — 5月10日(土) —

	I~II (8:20~10:00)	(10:05~10:35)	III~IV (10:50~12:30)
1年	ギリシャ語 (横山昌英)	チャペル (鞭木由行)	教会音楽実習 A (飯島千雍子)
2年	新約各書 (遠藤勝信)		組織神学(人間論) (鞭木由行)
3年	牧会学Ⅳ (赤坂 泉)		旧約研究Ⅱ (津村俊夫)
4年	中間時代史 (久利英二)		聖書歴史地理 (松本任弘)

(上記内容については、当日変更となる場合もあります。)

第34回 聖書神学舎夏期研修講座

期 間：7月8日(火)～10日(木)

会 場：奥多摩福音の家

対 象：牧会者とその配偶者

テーマ：「**釈義から説教へ—その2：『祈り』**」

昨年から引き続いて、「釈義説教」について学びを深めます。各講義では、まず、みことばに聴き(説教)、説教が基づいたみことばの理解(釈義)を分かち合います。各説教が取り上げる主題は、「祈り」としました。

講 師：久利英二、鞭木由行、内田和彦、津村俊夫、遠藤勝信、松本任弘、赤坂 泉

(このほか、聴講制度、教会音楽舎・音楽科卒業生対象の教会音楽研究会があります。詳細は事務局まで)

第24回 教会音楽夏期講習会

期 間：7月23日(水)～25日(金)

会 場：聖書宣教会(宿泊は近隣の「玉川苑」)

対 象：聖歌隊員、聖歌隊指導者、奏楽者、独唱者等、礼拝や教会の諸集会で音楽の奉仕に携わっている方、および奉仕の準備をしたい方

テーマ：「**みことばと賛美Ⅱ**」—イエス、わが喜び—

内 容：講義 [詩篇1篇、ローマ人への手紙8章、聖なる神(1)キリスト者の内に働く御霊]
講義と演習[合唱曲「イエス、わが喜び」について、コラール前奏曲「イエス、わが喜び」の解説]
分科会 [聖歌隊指導法、歌唱法、声楽、オルガン、作曲(入門)]、合唱、教会音楽の夕べ

講 師：聖書宣教会教師・講師

聖書講座 (金曜日 10:30～12:10)

前 期：「へブル人への手紙」(早坂 恭)

4月18日～10月3日(15回)

於 ぶどうの樹キリスト教会(四ッ谷)

後 期：「申命記」(奥田健一)

10月～3月(15回)

教会合唱講座 (火曜日 19:00～21:00)

前 期：「御名をたたえるくちびるの果実を、神に絶えずささげようではありませんか」

(飯島千雍子、遠藤かおる)

4月22日～10月21日(10回)

於 立川駅前キリスト教会

後 期：10月～3月(10回)

2008 年度 聖 書 宣 教 会 主 要 年 間 予 定

2008年

4月10日(木)	入会式
4月12日(土)	前期開始
5月10日(土)	オープンデイ
5月21日(水)	祈りの日
6月4日(水)～6月5日(木)	特別講義
6月28日(土)～8月27日(水)	夏期調整期間
7月8日(火)～7月10日(木)	聖書神学舎夏期研修講座
7月23日(水)～7月25日(金)	教会音楽夏期講習会
7月中旬～	キャラバン伝道
8月28日(木)	帰寮日
9月2日(火)	前期再開
10月15日(水)	前期終了
10月16日(木)～10月27日(月)	秋期調整期間

10月21日(火)～10月22日(水)	リトリート
10月28日(火)	後期開始
11月8日(土)	第26回賛美礼拝
11月21日(金)	祈りの日
11月22日(土)	オープンデイ
12月17日(水)～1月6日(火)	クリスマス調整期間

2009年

1月7日(水)	後期再開
2月11日(水)	信教の自由を守る日
2月16日(月)	入会試験
2月21日(土)	教会音楽のひとつき
3月12日(木)	卒論発表会
3月14日(土)	後期終了
3月16日(月)	第50回卒業式

編集後記

主のあわれみに心を留めて感謝しながら、また主への期待をふくらませながら、また一つの年度を刻もうとしています。

節目を迎える毎に、ここにある営みを主ご自身のわざとして、主が正しく導いてくださいますように祈らされています。(A)